

京都大学防災研究所 水資源環境研究センター  
産学共同研究部門 ダム再生・流砂環境再生技術 研究領域  
設立記念シンポジウム

本研究領域の活動概要の紹介や、その背景となる国内外の動きについて情報提供する目的で、キックオフシンポジウムを、5月30日（木）に京都大学宇治キャンパス黄檗プラザで開催し、ダム技術者やダム再生や流砂環境再生に関わる研究者約170名が参加した。

シンポジウムは堀 智晴防災研究所長の挨拶に始まり、次いで国土交通省水管理・国土保全局奥田晃久治水課長（当時）より「ダム再生事業の現状と今後の展望」と題して、近年の水災害と事前防災対策の効果、ダム再生～既存ダムの活用～について、災害要因、具体的な事例および定量的なデータを含めて紹介を行っていただいた。その後、本拠点の活動概要を角 哲也特定教授、有光 剛特定准教授、恩田千早特定准教授から紹介した。

最後に、元国際大ダム会議総裁のアントン・シュライス名誉教授（スイス連邦工科大学ローザンヌ校）より、「ダム水理構造物：魅力がイノベーションを育む」と題した記念講演が行われた。記念講演においては、「ダムや貯水池などの水理構造物は、経済的・文化的繁栄と密接に関連し、気候変動対策として重要であり、特に貯水池式水力発電や揚水発電は、柔軟な電源として停電回避に寄与し、クリーンエネルギーへの移行を進める重要な役割を担う一方で、水力発電は環境、社会、技術、市場の課題に直面しており、新たなアプローチが必要。これまでの研究事例を通じて、水理構造物の魅力がどのようにイノベーションを生むか」が紹介された。

シンポジウムでは今後の本拠点におけるダム再生、流砂環境生成技術に関する活動への期待の高さを示して頂き、大変有意義なものとなった。

